

平成 20 年度

## 「学生地域参画プロジェクト」報告書

茨城大学長 殿

① 代表者	所属・学年	教育学部数学選修 3年
	ふりがな	ひらい あきこ
	氏名	平井 彰子

本年度交付を受けた支援経費について、下記のとおり報告いたします。

<b>②プロジェクト名</b>
大子町廃校再生プロジェクト ～in 初原ぼっちの学校～
<b>③活動分野</b>
1 教育・研究 2 ボランティア 3 課外活動 4 地域交流
<b>④プロジェクトの地域連携先</b>
水戸・大子の教育委員会 大子町役場 大子で活動しているNPO団体
<b>⑤プロジェクトの実施概要</b>
<p>【プロジェクト発足までの経緯】</p> <p>昨年度、大子町の廃校「初原ぼっちの学校」で、子どもたちを募集して2泊3日のキャンプを行った。その際、計画がたつまでに支援してくれた学校の方や地域の方、役場の方と関わるうちに、感謝を感じると共に、その地域と人が好きになっていった。そこで今年度は、好評であったキャンプにくわえて、廃校再生プロジェクトと題し、「初原ぼっちの学校」の利便性を高め、初原地区における、公民館のような『交流の拠点』にしたいと考え、プロジェクトが発足した。</p> <p>【プロジェクトの内容・計画】</p> <p>大子町にある廃校「初原ぼっちの学校」の再生を試みるプロジェクト。内容として、次の二つがある。</p> <p>① 「ぼっちの週末」と題し、月に一度「初原ぼっちの学校」を訪問し、地域の人と連携しながら、学校の利便性を高める為の話し合い、作業を行う。</p> <p>大子町初原地区の人たちにとってこの学校をより身近なものにするためにイベント等を行うことも視野に入れる。修繕が必要な場合は、地域の専門の方と協力しながら行う。学校を雰囲気良くする為に、花などを植えようと考えている。ヒマワリ、マリーゴールド、コスモスなどを考えている。試作的にカボチャも植える予定である。</p> <p>② 8月に子どもたちを集めてキャンプを行う。</p> <p>去年と同様、計画・募集から学生自ら行い2泊3日のキャンプを運営する。募集する子どもたちは水戸・大子の子どもたち。キャンプの内容は、子どもたちが自然の中で遊んだり、友達と仲良くできるようなものを考えている。具体的には学校周辺探索、ナイトハイク、キャンプファイヤー、流しそうめんなどがある。地域の人との交流も視野に入れる。</p> <p>【連携の方法】</p> <p>月に一度初原ぼっちの学校に行き、初原の地域の人たちと一緒に掃除や修繕等を行う。その際に大子町ならではの行事にも参加したいと思う。</p> <p>キャンプの企画内容は、現地の方と何度か打ち合わせを行い、安全面などから可能なかどうか等のアドバイスをいただき練っていく。打ち合わせを行うものの例としてキャンプファイヤーや流しそうめんなどがある。当日の地域の人たちとの関わりは、学校周辺の方の家を訪問したり、</p>

野菜を提供していただいたり、昔ながらの道具を借りたり、地域にまつわる話をしていただく、などというもの。まだ計画途中ではあるが地域の方を企画に参加させることもしてみたいと考えている。

#### 【期待される成果】

このプロジェクトを通して以下のような成果を考えている。

- ・ 廃校となった学校でキャンプを行うことで、現在ほとんど使われることのない廃校を魅力的なものとして地域にアピールすることができる。これにより学校が多くの人にかつて使われていたように使われるようになり、地域の活性化につながる。
- ・ 今は木造校舎というものを知らない子どもが多く、昔ながらの建物に触れ、そこで生活することで、その良さを感じることができる。
- ・ いつもと違う「人」と一緒に違う「場所」で活動するので、普段とは違った環境で、お互いの違いや良さを感じると共に、ものの見方が広がる。
- ・ 地域の方たちの意見や話を直接聞くことで、地域の問題点がより明確に把握できる。

#### ⑥プロジェクトの成果（1,000字以内、別紙可）

本プロジェクトは、大子町にある廃校「初原ぼっちの学校」の再生を試みるプロジェクトである。このプロジェクトは主に、「ぼっちの週末」と「さまーすくーる in 大子」の二つによって成り立つ。

「ぼっちの週末」では月に一度ぼっちの学校を訪れ、利便性を高めるための話し合いや作業を行った。5月17-18日、24日、6月21-22日、7月19-20日、10月25-26日、11月29-30日の計7回実施した。

学校に彩りを添える花壇や、大人数で使える水場、生ゴミを有効活用できる肥料場をつくった。作業中は、地域の方のアドバイスをいただくことや、足りない道具を貸していただくことがありとても助かった。

花壇にはヒマワリ、マリーゴールド、コスモス、アサガオを植え、子どもたちが夏のキャンプに来る頃に花を咲かせることができた。訪れた初原小OBの方たちにも喜ばれた。水場作りでは今まで不便だった水場を大きくし、大人数で使えるようにした。作業の合間に地域の方のご好意でうどん打ちやお茶摘み体験をやらせていただいた。「ぼっちの週末」では地域の方とたくさんお話ができ、大子という地域について知ることができた。今年度は、キャンプや催しにおいてこの体験を生かすことができなかったが次年度に向けて検討していきたい。

「さまーすくーる in 大子」では、子どもたちに心に残る発見をしてもらう、という目的で2泊3日のキャンプを行った（8月20-22日）。子どもたちは水戸市と大子町から募集した。募集の際には、大子町の小中学校の校長先生や町役場の方、また、水戸市のスーパーの方々から多くのご協力をいただいた。

このキャンプでは、子どもたちがのびのびと活動する姿が見られた。掃除や食事の準備では学生がほとんど手を貸すことなく、子どもたちが自主的に活動していた。また、中学生が下級生の面倒を見る姿も見られた。これらの活動により子どもたちの自主性、強調性や思いやりの心を育むことができた。

キャンプ終了後には何人かの子どもに変化があったようである。アンケートより、たくましくなった、大人っぽくなった、嫌いなものが減った、などの意見が寄せられた。

この「さまーすくーる in 大子」はその活動が茨城新聞（8月27日水曜日）に取り上げられた。キャンプのあと、キャンプに参加した子どもたちとその友達を集め、クリスマス会を行った（12月20日土曜日）。2泊3日のキャンプでは参加しにくかった子どもたちにもぼっちの学校を知ってもらうことができた。

**⑥プロジェクト参加者（代表者を含む。別紙可）**

氏 名	所属（学部・学科、大学院・専攻名）	学年
戸田 賢吾	教育学部技術科	4
内山 俊太	教育学部英語科	3
高橋 利哉	教育学部数学科	3
荻原 智恵理	教育学部養護教諭養成課程	3
平井 彰子	教育学部数学科	3
安藤 康平	人文学部社会科学科	2
大曾根 和也	教育学部数学科	2
小林 真奈美	同上	2
小松 彩恵	同上	2
佐瀬 光祐	同上	2
篠塚 友美	同上	2
嶋崎 惇子	人文学部人文コミュニケーション学科	2
関 奈那子	人文学部社会科学科	2
高橋 遼	同上	2
槌谷 祐未	人文学部人文コミュニケーション学科	2
手塚 奈桜海	教育学部養護教諭養成課程	2
古木 香里	教育学部数学科	2
村上 慶一	同上	2
横島 あかね	同上	2
渡辺 誠	同上	2
元越 朝香	教育学部家庭科	2
池上 貴之	教育学部数学科	1
大石 浩二	理学部理学科	1
大川 拓哉	教育学部数学科	1
佐藤 静香	人文学部社会科学科	1
菅澤 和希	教育学部数学科	1